



田原本町立田原本中学校

2023 (R5 年度)
7月7日発行
第7号
文責：村井

〇めざす学校像

「ひとひといを生かす学校、規律ある美しい学校、みんなで力を合わせやり抜く学校」

第74回 奈良県総合体育大会



先日期末テストも終了し、梅雨明けと祇園祭が待ち遠しい季節となりました。同時に一学期のまとめの時期となります。一方で、学校生活で多くの方が励んでいる部活動の最も大きな大会が迫ってきます。下表の通り“第74回奈良県総合体育大会”です。この大会は、各競技ともに近畿大会そして全国大会に繋がり、中学校3年間の集大成となる大会です。それぞれの目標達成に向けて頑張ってもらいたいと思いますが、何より自分の力を100%発揮できたらと思います。

先日の**壮行会**では、それぞれ各部長から総体への決意表明があり、この大会にかける意気込みが伝わりました。また吹奏楽部は、8月4日のコンクールへの思いを演奏で表現してくれ、総体に向けた全校生徒の気持ちも大いに盛り上がりました。大会・コンクールまでの期間は、個人やチームの仕上げり具合を最終調整しつつ、頑張り過ぎてけがなどがないように注意してください。これまで取り組んできた練習は力となり自信となります。自分を信じ仲間を信じて最善を尽くしてください。



各部長

種目内容	日程(7月)	会場	種目内容	日程(7月)	会場
野 球	16. 21. 22. 24	ならっきー球場、樫原運動公園公式球場 他	卓 球	24(男女団体)	JTECTアリーナ奈良
	25. 27. 28			25(男女団体)	長柄運動公園体育館
バレーボール	24	各中学校、桜井市芝総合体育館、桜井市民体育館	27(男子個人)	JTECTアリーナ奈良	
			28(女子個人)	香芝市総合体育館	
	25	桜井市民・総合体育館	陸上競技	23. 24. 25	ならでんフィールド
剣 道	27.28	金魚スクエア	バドミントン	21	JTECTアリーナ奈良
	22(男女個人)	金魚スクエア		22. 23	桜井市芝総合体育館
	26(男子団体)	香芝市総合体育館	水泳競技	25. 26	まほろば健康パーク
27(女子団体)	バスケットボール		9. 16. 17	各中学校	
ソフトテニス	17. 21. 22	明日香庭球場		23. 24	金魚スクエア・香芝市総合
	27. 28			25. 26	JTECTアリーナ奈良

“熱中症” 高温多湿に 要注意!

熱中症の要因は高温と多湿と言われています。これからの気候には要注意が必要です。まず無理をしないこと！給水は適宜心がけること！次の体調変化を感じたら早急に適切な処置をとりましょう。

<初期段階>

- ・めまいや立ちくらみ
- ・体がだるくなって力が入らなくなる
- ・大量の汗が出る

<その後>

- ・頭痛がする
- ・筋肉の痛みや硬直が起る
- ・気分が悪くなって吐き気、嘔吐をする

<緊急対応>

- ー 風通しの良い場所や、冷房の効いた室内などへ移動させる
- ー 水分や塩分をしっかりと補給する
- ー 筋肉が痛くなったり、けいれんしたりするなら、**生理食塩水(0.9%の食塩水)**を摂取
- ー めまいや倦怠感、むかつきや嘔吐、頭痛のある時には、**イオン飲料**や**経口補水液**を補給！
- ー 足を高くして手や足を先の方から心臓部に向かってマッサージするのもとても有効
- ー 体に冷たい濡れタオルを首筋、腋の下、足の付け根に 当てる



インターネット：季節の病気ナビより

七夕(たなばた)



社会では、新型コロナウイルス感染症が5類になり、アフターコロナの生活が始まりました。とは言え、沖縄では第8波を既に越えた感染者数、異常気象による豪雨災害、ロシアのウクライナ侵攻等、気持ちが重くなる話題ばかりが耳に入ります。こんな時だからこそ、日本古来の風習に触れることで、ホワとした気持ちになりましょう。7月7日は『七夕』ですね。今年も、北館各階の東西に笹が飾られました。それぞれの笹には、皆さんの願いや夢や誓いが認(シタ)められた色とりどりの短冊が飾られています。日々の努力の延長に必ず実現すると信じています。

『おりひめ(琴座ベガ=織(シユク)女の星)とひこぼし(鶯座のアルタイ=牽(ケン)牛の星)の伝説』は、縫製と農業を司る星が、1年に一度、7月7日に天の川を挟んで最も輝く日として、「めぐり合う日」といわれていることからロマンチックな話がつくられました。実は、あまりにも二人の仲が良すぎて怠業するようになり、神様の怒りに触れ「天の川」で距離を置くことになったとか・・・。

日本での起源は、その昔、日本の禊(ミソギ)の行事として、「乙女が着物を織って神棚に供え、神様を迎えて秋の豊作を祈ったり…」という神事がありました。その乙女を「棚機女(タナハツメ)」と表現し、着物を織る織り機を「棚機(タナハツメ)」と言っていました。この行事がお盆を迎える準備として「7月7日の夜」に行われるようになり、現在「七夕」を「たなばた」と当て字で読む由来となりました。また、「願い事」は、江戸時代の寺子屋に通う子どもたちが、習字の上達を願って短冊に書き、七夕よりずっと以前から神聖なものとして大切に扱われていた笹につるしたのが始まりだと言われています。(インターネットより参照)